

人工知能 と可視化

公開シンポジウム

日時：平成28年11月30日(水) 13:00~18:00

会場：日本学術会議講堂

(〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅出口5)

開催趣旨：2045年、計算機がヒトの計算性能を超えることが予想され、あらためてヒトと計算機の関係が問われている。ビッグデータ時代、高性能計算機と人工知能技術が将来進展するとヒトは不要になってしまうのではないかと不安を持つ人たちも増えている。ヒトがビッグデータを効率よく認識するためには、優れた可視化技術が必要である。本公開シンポジウムでは、人工知能と可視化技術の先進事例を通して見えるヒトと計算機の新しい関係について議論を深めたい。

13:00 開会挨拶

吉村 忍 (日本学術会議連携会員、東京大学工学研究科教授)

13:10 趣旨説明

小山田 耕二 (日本学術会議連携会員、京都大学学術情報メディアセンター教授)

13:20 AI for Scienceにおけるデータ駆動科学と可視化

司会 藤代 一成 (慶応大学理工学部教授)

岡田 真人 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)



14:20 急速な人工知能技術発展による第四次産業革命の到来と可視化の重要性

司会 伊藤 貴之 (お茶の水女子大学理学部教授)

岡田 陽介 (ABEJA社 代表取締役)



15:20 データ駆動型解析による生命科学の革新と可視化の貢献

司会 小山田 耕二

大浪 修一 (理化学研究所生命システム研究センター発生動態研究チームチームリーダー)



16:20-16:30 (休憩)

16:30 パネル討論 ヒトと計算機の共進化

ファシリテーター 中島憲宏 (日本原子力研究開発機構 システム計算科学センター・副センター長)

討論者 前半の部の講演者・司会者

18:00 閉会挨拶

萩原 一郎 (日本学術会議連携会員、明治大学先端数理科学インスティテュート・所長)

ホームページ : <https://goo.gl/wuxOud>